

都市再生整備計画 事後評価シート  
南千里駅周辺地区(第2期)

令和2年1月

大阪府吹田市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府		市町村名	吹田市		地区名	南千里駅周辺地区(第2期)			面積	410.2ha		
交付期間	平成28年度～平成31年度		事後評価実施時期	令和元年度		交付対象事業費	880百万円	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(公共広場整備、用地、歩行者デッキ整備)、高質空間形成施設(歩行支援施設整備)										
		提案事業											
	当初計画から削除した事業	事業名											
		基幹事業											
		提案事業	事業活用調査(事後評価業務)、地域創造支援事業(サイン誘導補助)									影響はなし	
新たに追加した事業		基幹事業	道路(豊中摂津線・バスバース)									影響はなし	
提案事業	-										-		
交付期間の変更	当初	平成27年度～平成31年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							-		
変更	なし											-	
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	交通利便性の向上	m	420	H26	260	H31		260	○	あり なし	バスバースの整備により、バス停車時におけるバスによる車線の遮断が解消されたことによる影響が大きいと考えられる。	-
	指標2	地域コミュニティの形成	回/年	1	H26	3	H31		21	○	あり なし	公共広場の整備により、イベントスペースが確保されたことによる影響が大きいと考えられる。	-
指標3	-	-	-	-	-	-		-	-	あり なし	-	-	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	その他の数値指標1												
その他の数値指標2													
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共広場の整備により、駅前に市民が憩える場だけでなく、イベントを開催できる等、地域との賑わいの核となる場が実現した。</li> <li>デッキの整備により、路面がきれいになり歩き易くなったとの声があった。</li> <li>高質空間形成施設(歩行支援施設)整備により福祉対応型エレベーターが設置され、バリアフリー化が実現し、駅とバス停を結ぶバリアフリー動線も改善した。</li> </ul>												
5) 実施過程の評価	実施内容												
	実施状況												
	今後の対応方針等												
モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									-		
住民参加プロセス	吹田市土木部地域整備推進室と関西大学住環境デザイン研究室が協働し、社会実験を実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									● 今後も市民に望まれる広場の実現を目指し、適切な維持管理を図り、周辺地域や活動団体が利用しやすい環境を維持する。		
持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									-		

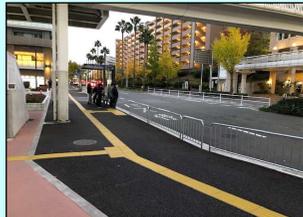
## 様式2-2 地区の概要

### 南千里駅周辺地区(第2期)(大阪府吹田市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標:「魅力あふれるにぎわいのあるまち」の再整備 目標1: 交通利便性の向上: 府道豊中摂津線のバス停のバスベイ化による交通環境の改善や、駅とバス停を結ぶ歩行者動線のバリアフリー化等により交通結節点としての機能の充実を図る。 目標2: 地域コミュニティの形成: 千里ニュータウンも開発後、約50年が経過し、住民意識が変化の中で、若者から高齢者までの多様な世代が協働・交流し活気あるまちづくりを一層すすめるための場所や機会を提供し、市民相互の交流の向上に努める。	交通利便性の向上 単位: m	420	H26 260 H31	260 R1
	地域コミュニティの形成 単位: 回/年	1	H26 3 H31	21 R1
	— 単位: —	—	—	—



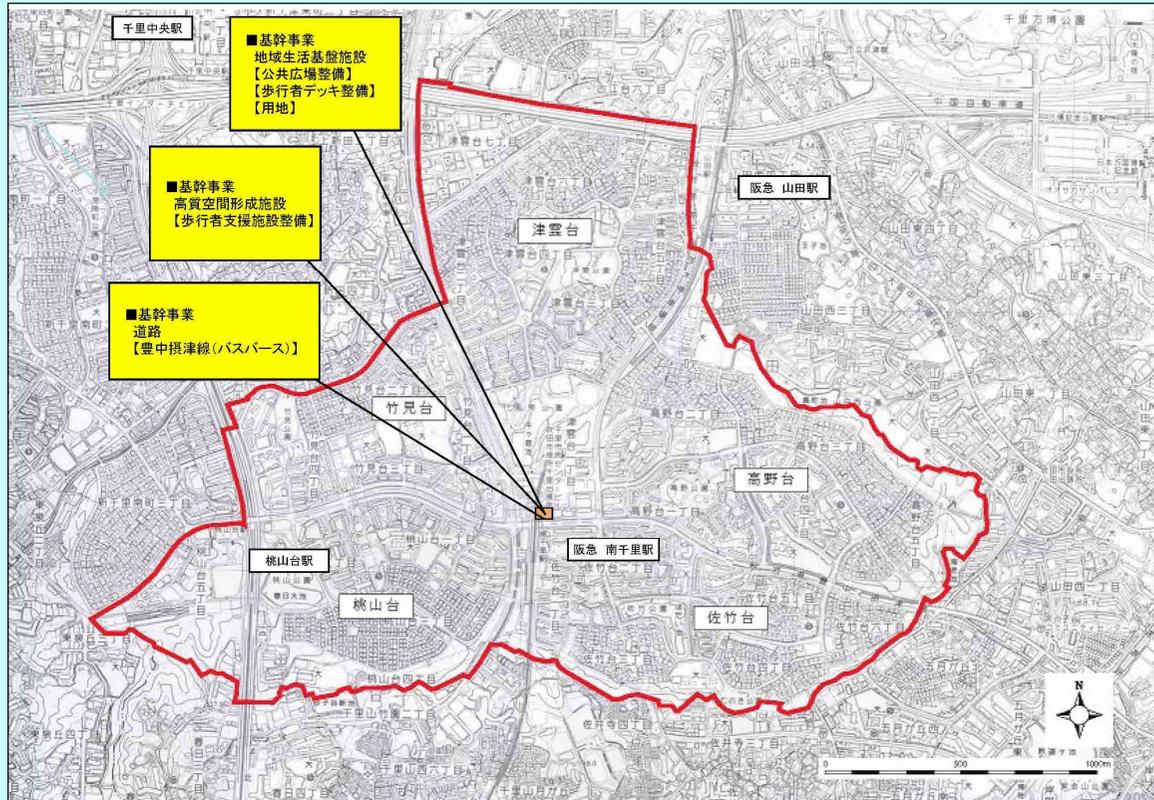
地域生活基盤施設 (公共広場)



道路 (バスバス)



地域生活基盤施設 (歩行者デッキ)



高質空間形成施設 (福祉対応型EV)

凡 例
<span style="background-color: yellow; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span> 基幹事業

まちの課題の変化

- ・連絡デッキが新設され、利便性が向上した。また、福祉対応型EVが整備され、バリアフリー化も実現した。
- ・公共広場の整備により、市民のための憩い・ゆとり空間が創出されるだけでなく、地域活性化に向けた取組も行われる等、活気あるまちづくりに貢献している。
- ・府道豊中摂津線におけるバスベイ整備により、バス停車時のバスによる車線塞ぎがなくなり、渋滞長減少を実現した。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

- ・事業実施箇所を踏まえ、地域全体のバリアフリー化の推進を検討する。
- ・地域コミュニティの形成の場として、適切な維持管理を図り、周辺地域や活動団体が利用しやすい環境を維持する。